

2020 年度支部研究補助費活動報告

建築計画部会長 坂口 大洋

東日本大震災発災から 10 年が経過し、多くの被災地において 10 年を節目として地域の復興拠点の役割を担う様々な公共建築の整備が進展してきています。これまでの、どのようにハード整備を行う段階から、これらの整備がどのように地域に貢献するかが問われる段階に移行しつつあります。コロナ禍において生活環境における様々な影響が広がるとともに、今後の建築計画における新たな指針への検討が急務となっている。しかしながら、施設調査などの実施などが難しい側面もあり実態把握が困難な側面もある。

建築計画部会においては、発災から 10 年の節目のその活動の一環として 2020 年 12 月 6 日（土）にオンラインで開催された東日本大震災の 10 周年記念シンポジウム WG5 報告に竹内泰先生（東北工業大学）に津波被害と番屋などの復興支援の報告を行っていただいた。ご尽力いただいた関係者にこの場を借りて、御礼を申し上げます。

また、東北支部研究補助の支援を頂き、「東北地方における公共施設等総合管理計画策定状況と施設集約化・複合化の基礎調査」（研究代表者 坂口大洋）を行った。近年の津北地方における公共施設等総合管理計画策定状況の把握を行い、具体的な事例について関係者へのヒアリング調査などを踏まえ、基礎的状況の整理を行った。